

県次期総合5か年計画 佐久地域計画の策定に向けて

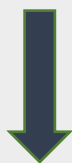
令和4年7月12日

佐久地域振興局

策定に向けた検討状況

管内市町村長へ
6月に提示
(次頁のとおり)

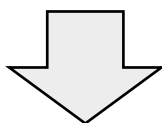
現状の分析



課題の整理

県民の皆様からの
ご意見

- ・市町村長
- ・県議会議員
- ・事業者
- ・各種団体
- ・若手県職員 等



具体的な事業の検討

7月より検討開始



計画原案公表

12月を予定

佐久地域の現状

令和4年6月 佐久地域振興局

佐久地域の強み

+ α (プラスアルファ) 要素

首都圏との近さ

- ・北陸新幹線で1時間～1.5時間
- ・高速道路により車でのアクセスも容易

地域交通（市町村間交通）の再構築 ／自動車頼みからの脱却

- ・世帯あたりの乗用車保有台数が多い
- ・公共交通は路線廃止や利用者減が進む

医療体制の充実／農村医療の伝統

- ・佐久総合病院をはじめ13病院が存在
- ・医療従事者も多く、医療体制は概ね充実

高齢者数の増加等を見据え、 医療・介護・生活支援の更なる充実

豊かな自然環境／圧倒的な晴天率 ／熱帯夜がない冷涼な気候

- ・年間平均降水量が少なく、日照時間が長い

佐久地域のブランド力向上

- ・民間調査においては、苦戦する自治体も

新しい特徴的な教育の充実

- ・軽井沢風越学園、大日向小・中学校、
ISAK JAPAN、森のようちえんぴっぴ...

高校・専門学校・大学の強化

- ・工業系・IT系の学校が他地域に比べ少ない
- ・高校生は上田、山梨県、群馬県に流出

災害（地震・水害）が少ない

- ・災害復旧事業費が少ない
- ・雨が少ない等、気候にも恵まれている

浅間山の火山防災

- ・直近では2019年に小規模噴火が発生
- ・噴火警戒レベルは上げ下げを繰り返す

バランスのとれた産業構造

- ・農林業も製造業も観光も商圏も強い
- ・佐久平駅を中心に生活圏が形成

30年後を見据えた産業施策

- ・持続可能な農林業や製造業中心からの
転換が必要ではないか

子育て世代（30～40代）の移住増

- ・移住者数は10圏域で最多
- ・コロナ下において子育て以外の移住も増加

移住者（クリエイティブ人材）の活躍の場 ／地域産業との連携がない

世界的・全国的な環境変化

気候変動

D X (AI・IoT) /
Society 5.0

食料問題

文化芸術活動 /
地域の歴史・文化財

人口減少 /
少子化

価値観の変化
(Well Being)

...

【首都圏との近さ】

○新幹線による移動時間（例）

■ はくたか556号

軽井沢駅 ～ 東京駅 **1時間3分**

佐久平駅 ～ 東京駅 **1時間13分**

出典：「NAVITIME」より佐久地域振興局調べ

○高速道路による移動時間（例）

小諸IC ～ 練馬IC **1時間44分**

八千穂高原IC ～ 練馬IC **1時間57分**

出典：「NEXCO中日本ドライバーズサイト」より佐久地域振興局調べ

○北陸新幹線定期外乗車人員

<令和元年度>

(1日平均)

佐久平駅	軽井沢駅	長野駅	上田駅	飯山駅
1,629	3,464	6,228	2,296	457

出典：JR東日本「乗車人員データ」より建設部まとめ

・首都圏への通勤、通学も可能

・中部横断自動車道について、未整備区間（八千穂高原ICから長坂JCT（仮称））の建設促進と早期全線開通が強く望まれている

※開通後

八千穂高原IC ～ 八王子IC **1時間57分**
(現在：2時間23分)

出典：「NEXCO中日本ドライバーズサイト」、「NAVITIME」及び佐久地域振興局試算（未整備区間：70km/h）

・1日当たり多くの方が新幹線を利用している

⇒ 「駅までの」「駅からの」
移動手段は充足しているか？

【地域交通（市町村間交通）が自動車頼み】

○世帯あたりの乗用車保有台数

<2015年>

	佐久地域	県	県市部	県郡部
世帯あたり乗用車保有台数	1.74 >	1.68	1.66	1.81
保有台数伸び率（30年前比）	2.42 >	2.27	2.31	2.12

出典：北陸信越運輸局長野運輸支局「自動車保有台数」をもとに企画振興部調べ

- ・自動車保有率は高い
 - ・保有台数の伸び率も大きい
- ⇒ **自動車が普及している**

○人口あたりの運転免許保有率

<2015年>

	佐久地域	県	県市部	県郡部
人口あたり運転免許保有率	0.71	0.72	0.71	0.72
保有者数伸び率（30年前比）	1.40	1.36	1.38	1.26

出典：長野県警「運転免許人口」をもとに企画振興部調べ

- ・運転免許保有者数は増加している
- ⇒ **自動車を活用する人が増えている**

○市町村を跨ぐバス路線の廃止等

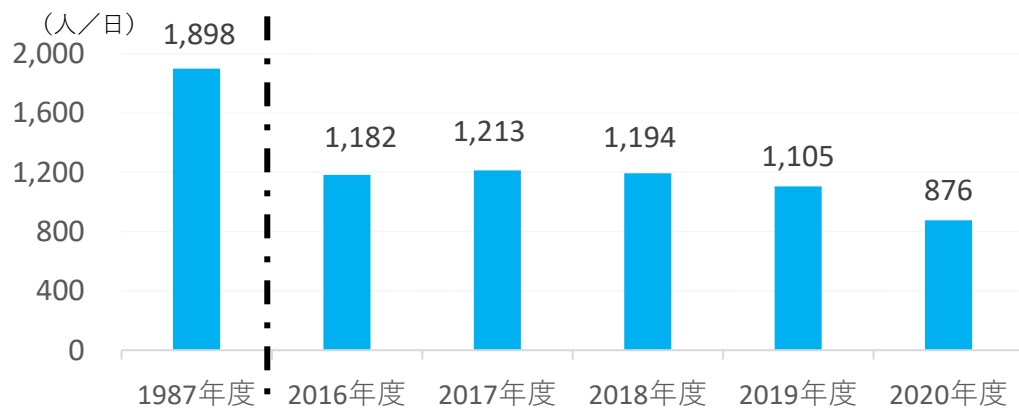
路線名	経路	状況
佐久上田線	佐久市～小諸市～東御市～上田市	路線廃止（R3.9月）
中仙道線	佐久市～立科町	民間事業者による自主運行廃止（R3.9月）

出典：佐久地域振興局調べ

- ・佐久上田線は70年余の歴史に幕
- ⇒ **公共交通を民間事業者の独立採算により維持していくことは困難な局面に**

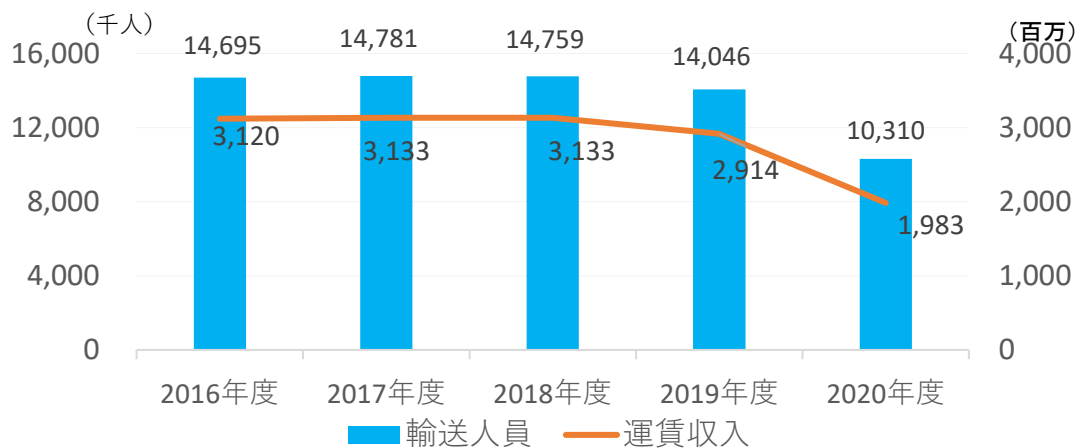
【地域交通（市町村間交通）が自動車頼み】

○小海線平均通過人員推移（小諸～小淵沢）



出典：JR東日本「路線別平均通過人員推移グラフ」

○しなの鉄道輸送人員・運賃収入推移



出典：しなの鉄道会社概要

・コロナ前より、利用者は減少傾向

・コロナ禍が重なり、利用者数は更に減少

⇒ 鉄道事業者は極めて厳しい局面に

・令和元年東日本台風災害、コロナ禍により、利用者数は減少

・広域道路が完成するたびに利用者数が減少

※平井寺トンネル無料化、生田トンネル開通で大屋駅は通勤利用者が激減

○ 1日当たりの大屋駅通勤利用者数の推移

2014年：316人/日

2018年：278人/日

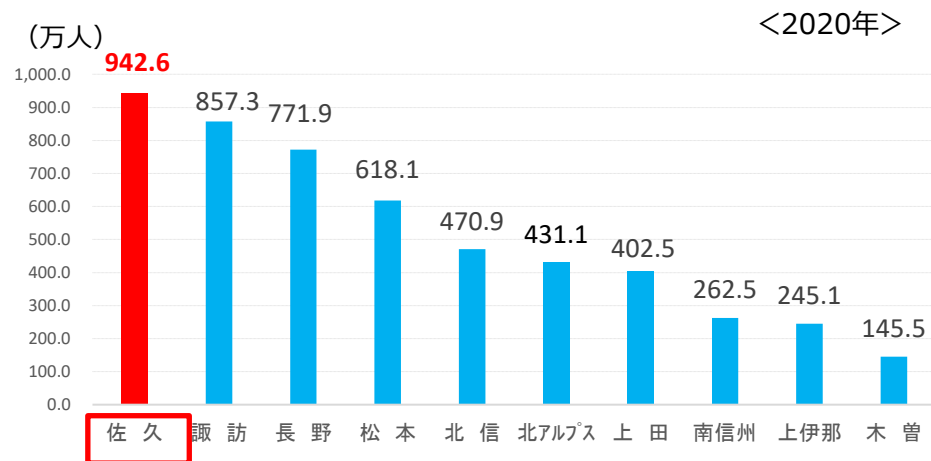
2022年：188人/日（△40.5%）

[出典：県公共交通活性化協議会佐久地域別部会アンケート]

⇒ 経営支援の一環として、県としても利用促進に取り組むべき

【佐久地域は県内屈指の観光エリア】

○観光地延利用者数（圏域別）

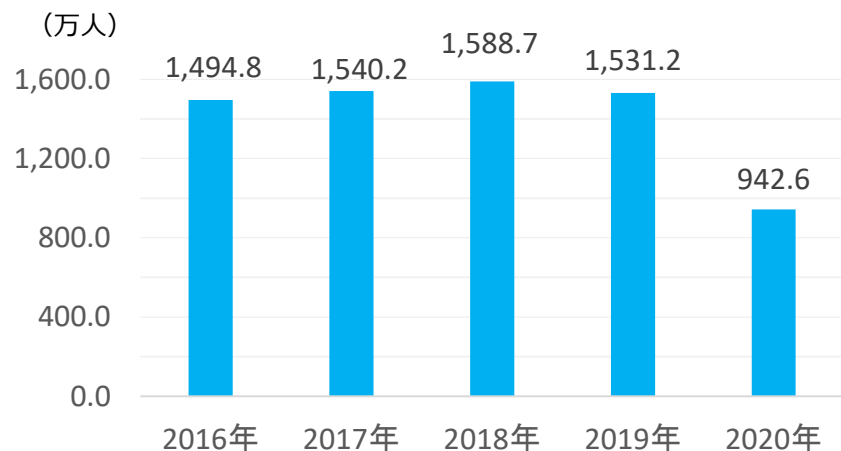


出典：県観光部

・ 軽井沢町をはじめ、多くの観光客が訪れる県内屈指の観光エリア

※軽井沢町514.4万、佐久市139.7万、立科町128.3万、小諸市89.3万、その他70.9万

○観光地延利用者数の推移（佐久地域）



出典：県観光部

・ ここ数年、観光客は増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により激減

⇒ 落ち込んだ観光客数を持ち直し、更に増加させるような取組が必要

【あるべき姿】

- 車がなくても不自由なく観光ができる環境

【(強い) 仮定】

- 交通事業者の経営が厳しさを増す中、公共交通サービスが低下
- 自動車以外の観光客は、不便さを感じている

【検討事項】

- **観光客の移動手段は充足しているか？**

- **(自治体内のみに限らず)**

広域間の移動手段は充足しているか？

⇒ **県として検討が必要な部分**